



経教(きょうきょう)は  
これを喩(たと)うるに、  
鏡(かがみ)のごとし。

善導(ぜんどう)

家のかがみは教えてくれる  
わたしの身の姿を  
これだけ年を重ねてきたと  
経のかがみは教えてくれる  
わたしの心の中を  
これだけ罪を重ねてきたと

### 春永代経 法座

4月28日(金)

午前	9時30分	おつとめ
午前	10時15分	おはなし
午後	12時	おとぎ
午後	1時	おつとめ
午後	1時45分	おはなし
午後	3時30分	終了

ご講師 松岡洋之さん

(本願寺派永照寺住職 山口県萩市)

お釈迦様が説かれた教えは、聞いた人により、代々にわたり伝えられてきました。お経は「如是我聞(私はこのように聞きました)」から始まります。

教えの願いを聞き、私が生きていく道、人生の意味をたずねていく場所が、永代経法座でもあります。

◇◇聞き、語り、伝えられること◇◇

昨年映画となり、なかなか見る機会もないのですが、「ラーゲリより愛を込めて」という作品があります。もともとは辺見じゅんさんの『収容所から来た遺書』が原作となつています。本を読み、いろいろと感じることも多くありました。

ラーゲリとはシベリヤの収容所のことです。一九四五年(昭和二十年)敗戦以後、中国大陸でソ連軍に投降した多くの日本兵や一部の民間人が東部の冬は極寒地域のシベリアをはじめ、西は現在のウクライナやカザフスタンなどの中央アジアまで連行され、強制収容所(ラーゲリ)で生活を余儀なくされました。人数は六十万人もいわれ、七万人が現地で亡くなったとされます。専龍寺のご門徒でお会いしたかたも、また学生時代講義を受けた真宗の先生にもおられました。ご門徒からは、移送される貨車の中の話をお聞かせいただいた事がありました。

遺書の文面を、縁あつた者が部分部分わけながら、検査で書いたものは没収されていくため、記憶しとどめ妻につたえたそうです。最後に届けられたものは、三十三回忌の年であつたといひます。

この史実を知り、お経が伝わった話、親鸞聖人のご生涯が思い起こされました。お釈迦様が説かれた内容は、覚えられ伝えられました。中国へは、三蔵という中国語に訳す人によって覚えられ書き起こされ、私たちが今よむお経になつていきました。親鸞聖人もまた、流罪にあい転々とするなか手元にあつたのはわずかで、主要な御経・法然上人のお言葉は記憶の中にあつた事でしょう。

どうすれば、正信偈や御経を記憶できるか聞かれたことがあります。意味を理解するより、幼いときに覚えた歌の歌詞を忘れないのと同じように、繰り返し聞き、繰り返し読む事だと思ひます。本当に伝わらなければならぬことは、文字だけ残すことでは伝わらず、今を生きている人の中で願いが引き継がれ、大切にされ、伝わったことの証だと思ひます。出会い、信頼し、聞き続け、生活をし、自身のできることで何とか伝えようとしていき、大切なことが伝わっていくのだと感じます。